

ショパンの「ピアノ協奏曲2番」より「ラルゲット」、憧れ・ときめきのメッセージ、一音一音情感込めて切々と迫ってくる。際立つ響き心の襞まで明らかに、空間の余裕とは適度なバッファー・オブロードの作用。臨場からの逃避模様を連想、懐かしい思い出ノスタルジア、都合よい忘却そして美化、またはアバターに投影思いを託す。現実直視ならば、透き通る心うち赤裸々、切実痛々し過ぎる羞恥心。

マーラーの「交響曲5番」より「アダージエット」、穏やかでロマンチックなポピュラーな楽章。ヴェールがかった薄もや、ファージイで曖昧模糊、安寧へのモタレ込み、ほっこりとしたソフト・ランディング。一歩ずつ力強く切り開くスタンス、ストレート勝負、新たな発見の連続、バイオニアの喜び。アグレシップな膨らまし、エモーショナルな気分の高揚、甘美なエクスタシー耽溺、とは別アプローチ。

コロナ禍、こわいのと、コンサート自体少なく、次第に遠ざかる。先般、奥井紫麻さんを聴き、粗削りながらキラキラしたものに触れ、生演奏ってイイナアという気持ちがよみがえる。久しぶりの至近距離でのピアノではどうか。

このサロン4度目の体験、過剰気味の音響レンジ、受け入れ体制OKの筈だったが、間隔が空いたため、初聴時にリセット。自宅でのCDの再生、家族の不在時は目一杯ノボリウム、大音響で悦に入る。それをはるかに超過、逃げだせない空間、有無を言わさず音感覚の脳内コントロール。ただ、拒絶バリアーはなく受け入れるだけ、迫力に圧倒され、マゾヒスティックな歓び。

ショパン:ピアノ協奏曲 2番 へ短調 Op.21から 2楽章 ラルゲット

ショーソン:愛と海の詩から「リラの花咲く頃」

マーラー:交響曲 5番 嬰ハ短調から 4楽章 アダージエット

ヨハニ・シュトラウスⅡ:オペレッタ「こうもり」から序曲

(アンコール)

ラフマニノフ:練習曲「音の絵」ハ長調 Op.33-2

リムスキーコルサコフ:熊蜂の飛行

ブラームス:ハンガリー舞曲 5番 嬉ハ短調

ショパン:幻想即興曲 嬉ハ短調 Op.66